其の灌域は地味肥え物産多く、又炭田に富めり、筑豐鐵道は此の河溪に沿へり。筑後川は九州第一の大河にして、千年川又は筑紫次郎の名あり、豐肥境の水を聚め、西流して、筑紫平原を走り、下流は肥前、筑後の境となり、若津港より筑紫潟に入る。其の流域は九州第一の生産地にして、夥しく米穀及木蠟を産す、此の河は南朝の忠臣菊池氏の奮戰場にして、河中に『太刀洗石』今尚ほ存せり。

○肥後に四大河あり。菊池川、白川、緑川、球麻川是なり、共に肥後の沃野を潤し、嘉穀の産所なり。球麻川は激流奇岩を嚙み、兩岸の景實に雄壯なり、輕舟之を下れば水程十八里、僅に四時間に過ぎず、即日本三急流の一なり。薩摩の川内川は九州第一の長流にして、長さ四十六里、灌域は主要の農産地なり。

◎沿海　東海岸は屈曲に乏しく、島嶼少しと雖ども、西海岸は出入甚だ多く、岬灣參差して、大小の島嶼其の沿岸に星羅し、從ひて良港多し。筑前には鐘ヶ岬、北出し岬東は響灘にして、若松、蘆屋の兩港を有し、岬西は波荒き玄海洋なり。沿岸の博多灣は志賀島の砂洲前面を擁し灣邊の『千代ノ松原』は鞴濱と稱し、青松白砂の景あり、弘安年間元寇の遺跡なり。

○肥前は半島、港灣の多きこと全國無双にして、古來我が國の文化輸入の門戸たりしは、偶然にあらざるなり。即北には東松浦半島、突出し東の灣入を唐津灣とし、西を伊萬里灣とす。半島の北端に名護屋、呼子、假屋等の諸港あり。次ぎに西北に向へる半島を西松浦とし、平戸島と相對す、半島の南に佐世保軍港あり彼杵半島其の南より挺出して、鯛浦灣を抱く、沿岸に大村あり、故に大村

灣の名あり。彼杵半島より、尚ほ南に斗出するを野母崎と云ひ、内に長崎港あり。野母崎の北にある一島は高嶋にして、有名なる石炭産地なり。野母崎の東に人胃狀をなせるを島原半島とす、南端に特別輸出港なる口ノ津港東端に島原港あり。此の半島及天草群島によりて限らるゝ内海を有明洋又は筑紫潟とし、沿岸は淺きを以て良港少く筑後に若津、肥後に百貫石あるのみなり。

○肥前の西海上に大小の島嶼散點す。即東松浦半島の西北海上に壹岐(周回三十五里)あり、尚ほ其の北に對馬ありて、對馬海峽をなす。對馬は兩大島より成り、下島は周回五十里、上島は百三十五里あり、朝鮮海峽を隔てゝ朝鮮に對す。其の南海上に五島あり、福江(周回六十里)中通(全六十二里)の二島を大なりとす、其の東北に平戸島あ

り、此の沿海は有名なる捕鯨場なり。

○肥後の海岸は宇土半島突出し、其の西端に特別輸出港なる三角あり。半島の西南に天草群島あり最大島を下島(周回七十里)と云ひ上島(全二十七里)之に亞く、群島の東に當る内海は不知火を以て有名なる八代海にして、其の西の海は『雲耶山耶』の詩を以て著名なる天草洋なり。

○薩摩、大隅は兩脚狀の半島をなし、開聞、佐多の兩岬、雙々南海に突出せり、股間は鹿兒島灣にして、櫻島其の灣内にあり。長島、甑島は薩摩の西海上に羅列せり。大隅の南海上に種子、屋久の二大島あり、其の西南に羅列するを薩南諸島と謂ひ、遙に地脉を沖繩列島に連ぬ、大島は其の最大島(周回五十九里)にして鹿兒島を距ること百九十四浬あり、西郷隆盛の謫せられたる所なるを以て知らる。此

の列島の西側に沿ひて川邊七島（土喝喇群島）あり、此の諸島は霧島帶に屬する火山島なり。

○日向の海上は日向灘と稱し、沿岸殆ど五十里に亘れども、出入に乏しく、碇泊地は僅に細島、油津の二港及日隅の境に志布志灣あり。豐後の海岸は南部山脈陷落の遺蹟なれば出入多く、地藏崎東に出でゝ伊豫の佐田岬と相對し、早吸海峽を扼せり。其の北地藏崎と國東半島との間に菊薯灣あり、其の南には臼杵、佐伯の港灣あり、豐前北端に門司港あり内海の咽喉を扼し、其の西に小倉の良港あり。

◎處誌　九州は國祖基業の地にして、日薩隅は太初天尊等の都し玉ひし所、各地にあり。地勢西南を受け、支那、朝鮮及他の諸國との交通の衝に當り、海外の文物を輸入すると共に外寇を被りしことも亦繁かりき、彼の筑紫（つくし）の名は築石にして、海岸に石垣を築き外寇を防げるより出でたりと謂ふ。故に人質は一般に氣節を有し質直にして勇壯なれども、山間の民は粗野なるを免れず、北部は地味肥え、且石炭に富み事業多く、人質頗る怜悧なり。

◎大分縣　管轄　豐後全國、及豐前二郡

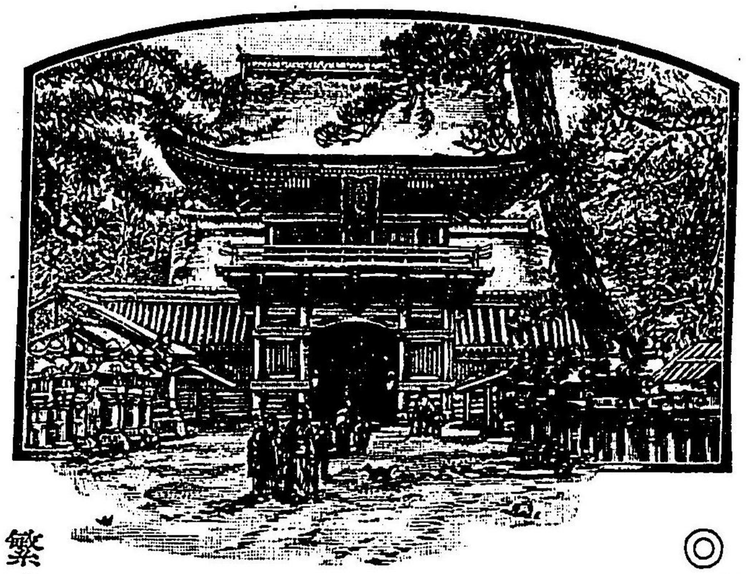
○豐後は嘗て大友氏の割據せし所にして近世の學者を出だせしこと多し。大分町は大分川の下流にあり、豐後の中央都會にして人口一万二千、其の菊舊港よりは漕船往復す。佐伯、臼杵は南部の都邑なり。大分の西北に別府あり、有名の溫泉場なり。

○豐前の中津町は山國川の吐口に建ち、元、奥平伯の治所にして、人口一万五千あり、縣下第一の都會なり。宇佐は其の東に在り宇

佐八幡を奉祀す、和氣清麿の故事を以て有名なり。長洲港は門司と定期漁船の航通あり。

◎福岡縣　管轄　筑前、筑後の二國及豐前四郡。

○筑前は昔九州探題を置きし國にして、其の太宰府は夙に九州の中央府たりき　福岡市は博多灣に臨み、博多を合せて一市とす、黑田長政、此の地に築き子孫世々其の城主たりき、海陸交通の便を占め、九州の貨物多く茲に集まり、商業繁盛にして、人口五萬九千あり、今歩兵第



箱崎八幡之圖

二十四聯隊を置く、博多織の産あり、近郊に香椎宮及『敵國降伏』の勅額を奉掲せる、箱崎八幡宮あり。太宰府は九州探題の治所なりし地とて、都府樓の趾及菅公を祀る天滿宮あり、福岡より漁車程半時間なり。門司は豐前の北端にあり、瀬戸内の咽喉にして、海外航路の要衝なり、陸路は九州鐵道の起點（博多（四十七哩）熊本（百廿一哩））なれば、俄に繁華の地となれり。小倉町は門司の西（門司（七哩半））に在り、元、小笠原氏の居城なり、今西部統督及第十二旅團を置く市街繁盛にして、小倉織の産地なり。

○筑後は筑紫平野の中央を占め、田圃拓け農業豐なること尾張に亞げり。久留米市は有馬伯の舊城市なり、筑後川に臨み、産物多く、九州鐵道の中途（博多（二十二哩）熊本（五十一哩））に當り、市況繁盛なり、市に有名なる水天宮及歩兵第四十八聯隊あり、人口二萬七千、久留米絣及生

蠟を出す。柳川町は平原中の一都會なり。若津港は筑後川口の良港なり。大牟田町は三池町に近く石炭の産地なり。

佐賀縣

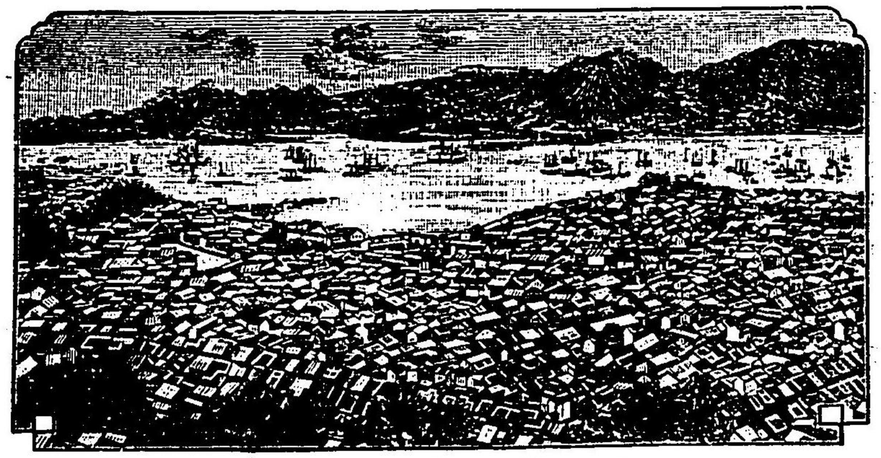
◎**佐賀縣** 管轄 肥前の東部八郡。

○本縣下は肥沃の平野に屬し、農産多く、曾て龍造寺氏の據りし所なり。佐賀市は平野の中央嘉麻川流域を占め人口二万九千、九州鐵道支線に當る、元、鍋島侯の城市なり、此の地維新の際には藩主閑叟侯を始め、志士輩出し、王政復古の大業を翼賛せり。北方の海岸に在る唐津は特別輸出港にして、石炭の産出あり、有田及伊萬里は陶器の名産地なり。

長崎縣

◎**長崎縣** 管轄 肥前の西部六郡及壹岐、對島

○本縣の西面は海岸線の錯雜せる形勝の地を占めたり。長崎市は五港の一にして、灣長く水深き東洋の良港なり、内外の船舶常に輻湊す。此の港は寛永年間支那、和蘭の兩國に限り通商互市を許したる最舊の貿易場にして、近古洋學に志すものは皆笈を負ひて此の地に學べり、我が國に西洋文物を輸入せしは實に此の港によれり、人口の多きこと、九州第一にして、既に七萬二千に進めり、控訴院、第五高等學校醫學部等あり。重なる輸出品は石炭、米、錫等にして、輸入品は砂糖、生牛皮、繰綿等なり。



長崎港之圖

佐世保軍港には鎮守府及海兵團あり、此の地の船渠は堅牢壯麗を以て名あり。

大村には歩兵第四十六聯隊を置く。

○壹岐の勝本は島中の名邑なり。

○對島の名は古來渡韓の要津なるを以て津島と稱し後、馬韓（朝鮮南部の古き地名）と相對するより今の名に改めたり。世々宗氏の領せし所にして、古來屢々外寇を被り島人歔欷の氣象に富む。

○嚴原は島内の名邑にして、島司廳及警備隊を置く、竹敷港には堅固の砲臺あり。

○平戸島の平戸、福江島の福江は共に名邑なり。

◎熊本縣　管轄　肥後全國

○菊地氏世々此の地に據り、南朝の時苦節を守りて大軍に當れり、後、加藤清正隈元（熊本）に封ぜられ、大に水利を興し、灌漑を便にし、米穀の産甚だ豐なり、中古以來細川侯（五十四萬石）の封土となり九州中央の雄藩なりき。熊本市は九州の中央に位し、白川に臨み、鐵道の便を占め、物貨集散し、市況繁盛にして、人口五万一千を有す、熊本城は鬼將軍の築く所、宏壯を以て名あり、西南の役、包圍中にありて、谷將軍遂に防守を全くせり。第六師團司令部を置き、九州の要鎮とす。近郊に第五高等學校、水前寺の勝地及清正の廟ある本妙寺等あり。球麻河口に八代町、其の上流に人吉町あり。隈府町には菊池氏累代の城趾あり。

守城者誰谷少將
築城者是當年
鬼將軍
五岳

熊本舊城及熊本市街

◎宮崎縣　管轄　日向全國

○日向は旭日を東に受けたる本邦最初の國名にして、神々の住み玉ひし國なれども、山地多く人口少く九州の北海道と綽名せらる、中古以來島津氏の併領する所たり。宮崎町は大淀川に臨み、縣廳所在地なれは、縣下の一都會なり。都城は人口の多き縣下第一にして、一萬三千あり。延岡、高鍋も一都邑なり。

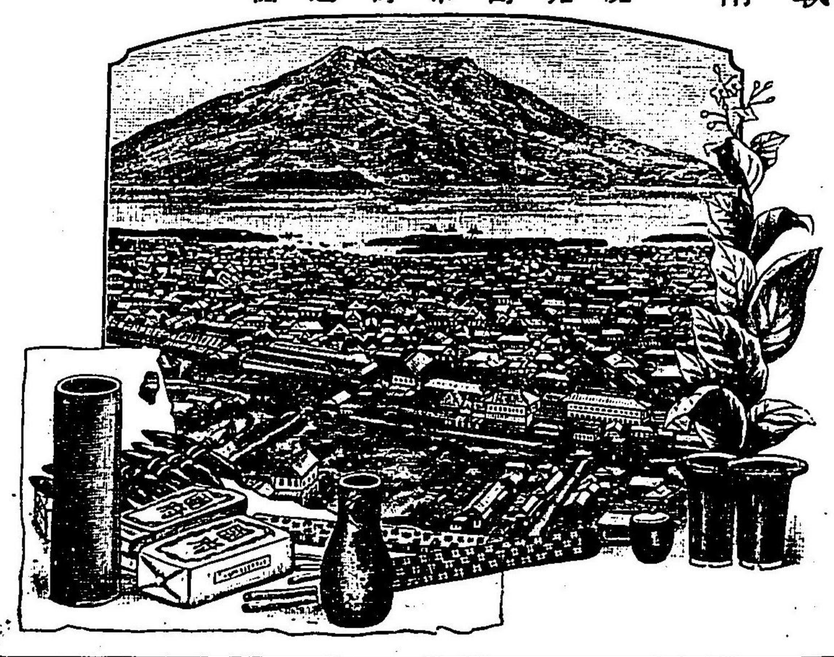
◎鹿兒島縣　管轄　薩摩、大隅二國

○薩摩は島津公、九百年來崛居せし地にして、士氣强悍にして、極南の一雄藩たりき、維新の際、藩主齊彬公を始め、大久保、西郷の兩雄及數多の俊傑輩出し、維新の勳功を擧くる時は先つ指を薩藩に折るに至る。鹿兒島市は鹿兒島灣頭、櫻島の前面に當り、甲突川に臨めり、此の市は交通未だ不便なれども、元島津公(七十七万石)の城市なるを以て、人口五萬四千、九州南部の一大都會なり、文久年間英

人の砲擊を被り明治十年にも戰場となりしかば、稍々衰退せり、南洲翁以下自盡の地なる城山は市の後にあり。南方沿海にある阿久根は燒酎、出水は烟草の名産あり。

○大隅は大初の古國なれども地僻陬にして、著しき都邑少し、唯加治木は大隅第一の名邑にして國府は烟草の産を以て著名なり。

鹿兒島市街之圖



◎交通　九州の交通は專ら西海岸に行はれ、東岸の交通は頗る稀

なり、而して中央高臺は自然の分界にして、之を横ぎるは甚だ難路なり。道路の重なる者三條あり、一、九州街道は小倉より久留米を經て肥後、薩摩の西海岸を通し鹿兒島に達す、二、九州東海道は小倉を發し、東海岸に沿て中津、大分を經て延岡、宮崎及都城より鹿兒島に至る、三、長崎街道は福岡を起點とし、佐賀を經、大村灣に沿ひ長崎に達す、此の道路の有田より分岐するを佐世保街道とす。鐵道は九州鐵道を主とし其の幹線は門司より博多、久留米、熊本を經て八代に達する百四十四哩あり、支線は鳥栖より分れ佐賀を經て佐世保に達す、又長崎、長與間も通ぜるを以て、全線の開通を見るは遠きに非ざるべし。小倉より行橋を經て後藤寺に達する者と、石炭運搬を主とする若松、臼井間の筑豐鐵道等あり。故に九州北部の陸運は頗る便なり。海船の航通も亦西

部沿岸に盛にして、長崎は航路の集合點となり、南部地方及諸外國に向て航行す。東部沿海は西部に比すれば航行繁からず。

◎氣候　九州は本邦の西南部に位すれば、氣候、固より溫暖なれども、東南部（日、薩、隅及豐後の東半）と西北部とは多少の差あり。西北部は亞細亞大陸地方より吹き渡る西北風を受け其の感化を被り、溫度稍〻低く殊に冬期に至れば、其の影響を被り寒威頗る强く、屢々降雪あり、而して全年の平均溫度は十四度半なり。然れども東南部は黑潮の洗ふ太洋に面し、其の調和により溫度頗る高く、嚴冬と雖ども山間の外降雪稀なり。而して夏は清涼なれども暑期頗る永く、春暖を催す亦早し、故に二月中旬已に櫻花の爛熳たるを觀る全年平均溫度は十七度內外とす。雨量は一般に多く、日、薩隅は本邦中多量の地に屬し、西北部も亦少からず、夏秋の候は屢

猛烈なる颶風に襲はるゝことあり。

◎**産業** 氣候溫暖にして、地味肥沃なれば各種の農産物多々、九州は實に一大農産地なり。就中筑紫平原には米質良好の肥後米を始め二筑、兩豐皆良米の産あり。本區内米の總收額は六百万石内外に上る、而して福岡は百六七十万石、熊本は百二三十万石を産す、麥の産出亦之に次ぐ。筑後の生蠟、薩、隅の甘藷等も有名なり、肥後の粟、兩筑の大豆、長崎、熊本、鹿兒島の煙草は最も良品にして、殊に國府煙草は最上品とす。此の外茶、藍等は各地共に産し、蠶業は未だ幼稚なれども、漸次盛ならんとす。畜産又有名にして肥、薩、隅の馬、豐後、肥前の牛は頭數甚だ多し。

○鑛産は農産に次ぎて豐なり、其の最も多きは石炭にして、兩筑、兩肥、豐前等重に、北部山脈附近に埋藏せり、筑後の三池、肥前の高島、

唐津の諸坑等著名なり、全國産の八割以上は本區内より出だす。黄金の産額多く薩、隅を以て本邦第一とす。肥後、日向の山地よりは銅を出だせり。

○九州は又工業地に適せり、是れ無盡の石炭を藏し、諸種の原料多く且海外に向て輸出するに便なればなり、故に各所に事業起らんとす。紡績は近時漸く勃興し、織物は博多織、小倉織、豐後絞、久留米絣、薩摩絣、大島紬、等は何れも古來世に稱せらる。陶器は有田燒、薩摩燒等あり、有田燒は海外へ輸出すること多し、七島莚(シツトウムシロ)は鹿兒島、大分を推し、砂糖は薩摩、天草、大島を多産とす。其の他鹿兒島の竹器、肥後、日向の紙は何れも一方の産物なり。

○林産は各地共氣候の宜しきに適し、廣大なる深林ありて、巨樹良材蓊鬱たり、特に樟の大木多く、松杉も亦繁茂し大隅の屋久杉は

木理の美を以て賞せらる。

○水産は各國共に産すれども、肥前を以て最とす、特に五島附近の捕鯨業は甚だ盛にして、世に五島鯨と稱せらる。又鰤、于烏賊、海參を産すること多し、次ぎは豐後の海濱にして、九十九里の浦と稱し、漁業盛なり。又薩摩の鰹及天草、五島、壹岐、對馬等の島地には諸種の海産頗る多し。

◎風土比較　今南北を横斷する中央臺地により、東西に分ち比較すると左の如し。

東部（豐前、豐後、日向、大隅）

○西に連山を負ひ、東方海に面し、海岸には平地あり、河水多く東流し、地勢總て東を受く。

○海岸の屈曲多からず、港灣、半島、島嶼少し。

西部（兩筑、兩肥、薩摩）

○東に連山を負ひ、西方海に面し、海岸には廣き平野あり、河水多く西流し、地勢總て西を受く、

○海岸の出入最甚しく、港灣、半島、島嶼實に夥し。

○水陸共に交通繁からず、發達隨ひて遲く、人口稀少にして繁榮の都會少し。

○農産物、工業品多からず、鑛業も亦盛なりとは云ふべからず。

○東方、本州に向ひ交渉を求むるが如く、往古本邦の發達は此の地より東漸して全國に及ひ、國祖の基業地として、歴史に富めり。

○水陸共に交通繁く、隨ひて發達し、人口稠密にして、繁榮の都會多し。

○農産物、工業品多く、鑛業も亦盛に、海産物尠からず

○西方朝鮮、支那に向ひ、交渉を求むるが如く、海外の文化輸入の門戸及外冦の衝地として歴史に富めり。

沖繩誌

◎沖繩縣　琉球の大小五十餘島を管治し、面積百五十七方里、人口四十四万あり。島彙自ら二群となる東北の島彙を沖繩群島と云ひ、西南の島彙を先島群島と云ふ。

○沖繩群島は主島を沖繩島とし、周回百十里、長さ四十里あり、其の形虬の水に躍れるが如し、故に琉球は流虬なりと云ふ。島中を

國頭、中頭、島尻の三部に分つ、島内山多けれども高からず、嘉津宇岳（一千五百五十尺）を最高とす。那覇は琉球第一の都會にして、島尻の那覇江北岸に在り、水淺く大船を舶すべからざれども風光明媚なり、人口三万を有し、縣廳、師範學校等あり。首里は那覇の東一里餘にあり、元、島主、尚侯の都にして、人口二万五千、那覇に次ぐ都會なり。國頭の運天港も有名の所とす、那覇の西海中に慶良間小群島あり。

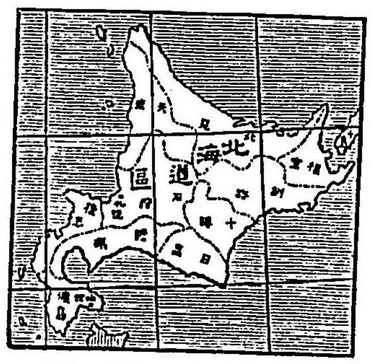
琉球人之風俗

○先島群島は宮古、石垣、入表の三島を大なりとす。此の外、與那國島は古、女護島と稱し、曾て珍談に上りし所なり、石垣島以西の列島を八重山群島と稱す。

○氣候は南海中に在りて、黑潮に洗はるを以て、著く溫暖に、全く島嶼的氣候なり、寒暑の差少く、殆ど霜雪を見ず、四時綠樹蒼々たり。全年の平均溫度は二十二度にして、夏期は二十七度半を平均とし、九州よりも稍々高し、然れども西南の海風熱を拂ひて清涼を覺ゆと云ふ。冬は十六度を平均とす、故に嚴冬も東京十月の溫度に仝し、故に半熱帶の植物能く繁茂し珍材を産す。稻は二月苗を挿み、七月收穫す、甘蔗は本島第一の産にして、盛に砂糖を製す、又甘藷の原産地にして本土の甘藷は此の地より渡れりと云ふ。四時繁茂せる藍あり本地の名産たる、琉球絣、上布等の染料とす、其の他泡盛、芭蕉布、漆器等の産あり。

北海道區誌

◎本區は我が邦の最北部に位する一大島なり。北は宗谷海峽によりて、露領樺太に對し、東北は千島群島によりて、堪察加と密邇し、其の間にオコツク海を抱く、南は津輕海峽によりて、本州に向ひ、日本海、太平洋を左右にす。本區は明治二年始めて北海道と稱し十一國に分たれたり。面積六千〇九十五方里あれども、人口は僅に六十五万餘にして一方里内に百〇六人を容るに過ぎず。北海道廳を置て全區を管轄す。



◎**地勢** 本島の地骼は樺太山系によりて作られ、其の樺太地脈の一旦陷りて再ひ宗谷岬より、起り南々東に走り、島の中央に於て

千島火山帶に連る、是れを東北山脈と稱し、平均二千尺の高度に過ぎず、東北山脈と千島火山脈と交叉する所は地勢最も高峻なる中央山彙を作る、又中央山彙より岐れ南、十勝、日高の境を走り、襟裳岬に達するものを日高山脈と稱す、芽室岳、神威岳、樂古山等あり。

○千島火山帶は千島列島を噴起し、本島に渡りて雄阿寒岳、雌阿寒岳等となり、中央に於て東北山脈及日高山脈と交叉す、中央の最高山をオプタテシケ山彙（最高點六千三百尺）とす、十勝岳、石狩岳等あり、高さ各五千尺以上に達し、山彙甚だ欝結せり。札幌の西には樽前、有珠、マッカリヌプリ（後方羊蹄山）等峙つ、渡島には惠山、駒ヶ岳、等の噴火山、内浦灣の周邊に聳ゆるを以て英人は此灣を火山灣と稱したり。以上諸山脈の四邊には廣大なる平野ありて、十勝平野、釧路平野、

を最も大なりとす、此れ等の平野は石狩平野の一部を除く外、茫漠たる未墾の地にして、人烟稀に、豐饒の土地空しく人の耕耘を待てり。

◎**水系** 島幅廣くして、分水界遠きと、河流の屈曲多きとを以て、長大の河流を涵養せり。本邦第一の長流なる石狩川は中央山彙より發して西流し、上流に於て二千尺の大瀑布となり、幽谷を刻みて上川原野に出て、雨龍、空知の大支流を合せ、遂に石狩港に注ぐ、全長百六十七里、河口の幅四百餘間あり、下流には船舶輻湊し鮭魚多し、上流の上川原野には離宮撰定地あり。石狩川に次ぎて天鹽川（七十八里）十勝川（五十里）あり、以上を北海道の三大河とす。

○其の他釧路川を始め河流多く、其の流域は何れも將來有望の原野にして、耕地又は牧場に適するもの茫々涯りなし、殊に石狩川

灌域の如きは、五億七千八百万餘坪に上ると云ふ。

○湖水は北見の猿間湖最も大にして、周圍十八里餘あり、根室の楓蓮湖、北見の網走湖等も稍々大なり。此の他火口湖多く、膽振の洞爺湖、支笏湖、釧路の阿寒湖、釧路湖等是れなり。

◎**沿海** 本島の沿海には平遠の砂濱多し、赤鱈の尾は渡島半島にして其の端は津輕海峽に對し、東に惠山、西に白神の兩岬斗出す、其の中間は函館灣にして、灣頭に函館港あり。惠山岬の西北に略々圓形の灣あるは內浦灣なり、灣口に繪鞆岬突出し內に室蘭の軍港あり、實に北門の要鎭たるに適す。繪鞆岬より襟裳岬に至る海岸は弓形をなし、襟裳岬より根室半島の納沙布岬に至るまでの海岸も亦殆ど同形をなし、其の東に厚岸灣、花咲港あり、此の沿海は昆布及鮭を產すること夥し。納沙布岬と知床岬との

間は根室灣にして、灣内の根室港は東北沿海唯一の要港なれども、水淺く大船を容るに適せず。知床岬より宗谷岬に至る北見の沿海も東北に向へる弓形をなし、冬時は沿岸氷塊を漂はし、怒濤海崖を嚙んで良港に乏し。宗谷岬は樺太島と相對し、其の間を宗谷海峽と云ふ。西に利尻、禮文の二火山島あり、野斜布岬より、後志の積丹半島に至る沿海には苫前、留萌、増毛、小樽等の諸港あり。小樽港は陸には鐵道の便あり、海には定期航海の漁船ある良港なり。積丹半島より渡島の白神崎に至る沿岸には岩内、壽都、江差、福山等の諸港あり。

◎處誌　本區は古來蝦夷島と稱し、中古以來蝦夷人即『アイヌ』人專住の地なりしを以て名けられたり。此の『アイヌ』人は古、本州の地に蔓延せしかども屢々征討を蒙り、遂に本區に退き今は僅に

アイヌ之風俗

邊隅に蟄居し、其の人口一万六千餘に過ぎず。體格は偉大にして、鬚髯多く、顏青くして、眼窠深く、額高し。

本區は土地廣大に、人口は未だ稀少なるを以て、若し本州の如き住民の密度に至らしめんには猶幾百万の人を容るべし。

○札幌は石狩平原の西南部にあり、本區の中央府にして、全道を管轄する北海道廳を始め、第七師團、農學校、師範學校、中學校、病院、及各種の製造所、諸會社等あり、人口二万八千、市街殷賑なり。鐵道は東北、炭山地方へ、西は小樽、南は室蘭へ通

じ、交通至便なり。小樽は札幌の西二十二哩にあり、小樽灣に臨み本區内の産物は多く茲に集まり、内地に輸送せり、船舶常に輻湊す、人口三万を有し、北海樞要の港なり、又此の地は本區の内地に入る門戸たるを以て、將來益々繁盛となるべし。

○壽都、岩内は共に後志の西海岸に在る小都會にして、增毛、留萌、苫前は天盧海岸の名邑なり。

○函館は函館灣に臨み、人口六万六千を有する北海道第一の都會にして、豪商軒を聯ね、學校、諸會社、銀行等ありて、商況繁盛なり、船舶の出入頻繁にして、重なる輸出品は昆布、

函館港之圖

硫黄等にして、輸入品は石油なり。福山は渡島の西南隅に在り、元、松前家の城市なりしを以て松前と稱したり、本區中最も舊き名邑なり、嘗て『松前二千軒函館千軒』の稱ありしかども今は遠く函館に及ばず。江差は西海岸の名邑なり、室蘭軍港は第五海軍區の鎭守府豫定地なり、鐵道札幌と相通じ、海には函館と濤船の便あり。室蘭より東、日高の海岸に亘りては苫小牧、浦河、幌泉の小邑あるに過ぎず。

○根室は我が國東北端の要港にして、此の附近及千島の貨物集散所なり、人口一万四千、市況漸次に繁盛ならんとす。其の西、釧路には厚岸、釧路の兩港ありて釧路港は特別輸出港として盛に硫黄岳産の硫黄を出す、之が爲め鐵道を布設せり。

○北見に網走、紋別、枝幸の船地あり。

○千島國は千島火山帶の噴起に係り、凡六百五十二浬の間に大小三十二島あり、其の總面積は四國島より稍小なり、然れども住民は南部諸島に少許あるに過ぎず。擇捉島を最大とし、幌莚、國後、得撫、色丹、之に次ぐ。此の列島の東は世界最深の海床に臨む。沿海冬間はタスカロラ海床に臨む。沿海冬間は波浪高く、春に至れば、巨大の流氷あり、各島には天然の良港多く、擇捉の紗那港、新知のブロトン港の如き是れなり。諸島は産物に富み硫黄の多き、恐くは世界第一ならんと云ふ、又臘虎、膃肭臍、鯨、鮭、昆布、を始め許多の魚藻ありて、將來有望の地なり。報効義

千島氷海之圖

會の志士、今や占守島の開墾に從事せり。

◎交通　本區は人口稀に、未墾の山野多きを以て、交通未だ困難なり。即道路は函館より起り、南方海岸を通じ根室に達する南海街道と北海岸を沿ひ根室に達する北海街道あれども、完備せず、内地の跋渉の如きは頗る困難なる所あり。然れども鐵道は割合に開け、日本海の手宮より起り、小樽、札幌を經て空知太、歌志内、幌内、郁春別の諸炭山に至る、又岩見澤より岐れ、追分を經て、夕張炭山に至り、追分より室蘭に至る約百八十哩の炭礦鐵道あり、又東部釧路にも少許里の布設あり。海路は函館を要點とし、小樽、室蘭、釧路、根室、と定期漁船の往復あり。

◎氣候　氣候の寒冷なるべきは、其の位置によりて知られたり、然れども内地人の想像する如き慘烈なる寒地にあらず、且人口の

增殖に從ひ漸く寒氣を減ずるは事實なり。本區の東海岸は親潮の寒流に洗はれ、寒威頗る强く、平均溫度五度乃至六度の間にあれども西海岸は對馬暖流に洗はるを以て稍々溫暖に八度、二を平均とす。中央內地は海洋の調和なく山脈起伏せるを以て寒氣烈しく氷點下三十五度に下ることあり。要するに本地の氣候は冬期長くして夏期短く、十月已に初雪を見、四月に至りて未だ解けず、六七月に至れば暖氣俄に催し、草木の發生速にして桃、櫻、梅、李、一齊に開く。雨量は一般に寡し、但西南海岸より中央山地に亘りては本區中にありて稍々多く、東北岸は寒流を以て洗はれ降水稀に本邦中の最寡雨の地なり。故に大河は西南岸より中央山地に涵養せられ日本海に注入す。積雪は北陸地方の如く深からず。

◎**産業** 區內平野多く、生産地域甚だ廣けれども、開拓日尙淺きを以て各種の事業未だ發達せず、然れども水陸共に天然の産物に富み採殖其の法を得ば財源の豐なる測るべからず、實に我國の寶庫なり、現今重要なる産物は鑛産及水産なり。鑛産は甚だ豐富にして、各種の産あれども就中、石炭は無盡藏とも謂ふべく、石狩の幌內を始め郁春別、夕張、空知等は産額甚だ多し。硫黃は石炭に次ぎて産出多く、釧路の北部火山地方を第一とす。水産の豐なるは獨り本邦に最たるのみならず、世界の三大豐魚帶の一にして、鯡、鰮、鮭、昆布、鱈、烏賊、鯨、海豹、等各地の近海に群集し、海獸には千島の蠟虎、膃肭臍等の貴重産あり。此の內最も多産なるは鯡にして全區の沿海各地にて漁する所實に夥し。昆布は天鹽、日高、根室の近海最も有名にして、支那へ輸出する額多し、區內の水

産額は殆ど全國總産額の三分の一に該る、住民は僅に全國の六十六分の一にして斯の如し、將來北道の水産は實に多望と謂ふべし。

○農産品の最も多きは馬鈴薯、甜菜とす、甜菜は砂糖を製す、次ぎを麻とし、米麥、豆、も産せざるにあらず、又所々に廣大の良牧場ありて、馬及牛を産す。山林には椴松、檜、蝦夷松、樺、落葉松、等數百年の巨木蓊鬱として、建築造船の良材なり現今本邦摺付木の軸木は概ね此の地より出すと云ふ。製造物は麥酒、砂糖、麻等を最もとし、函館天然氷亦著名なり。

◎**風土比較** 以上述べし諸項に就き、東北山脈及日高山脈により全島を東西兩部に分ち比較すれば左の如し。

西部（渡島、後志、石狩、天鹽、膽振、日高）

○東に東北、日高兩山脈を帶び支脈域内を横斷し河流多く西北又は西南流す。
○廣漠たる未墾の沃野ありて、將來有望の地なり、
○沿海多くは暖流に洗はれ、氣候稍暖和に、冬期船舶の航行を妨げず。
○交通稍發達し、既に數個の繁盛なる都會の建設を見る。
○降雨稍多く、農産、海産及石炭尠からず。
○本洲に向ひ、屢々本土との關係の歴史あり。

東部（北見、根室、十勝、釧路、）

○西に東北、日高、兩山脈を帶び千島火山脈横貫し河流多く東北又は東南流す。
○廣漠たる未墾の平野ありて將來有望の地なり。
○沿海多くは寒流に洗はれ、寒威强く、冬期は氷結して船舶の航通自在ならず。
○交通不便にして發達遲く、繁盛の都會未だ成立せず。
○降雨寡く、農産に欠乏すれども海産及硫黄多し。
○本洲に背き本土との關係の歴史なし。

臺灣區誌

◎臺灣は明治二十七八年役戰勝の結果によりて、清國より割讓したる名譽の新版圖なり。其の位置琉球の西南に横はり、西は臺

灣海峽を隔てゝ支那の福建省と相對し、南は比律賓群島と相望み、東は渺茫たる太平洋に瀕す。島形恰も木葉の如く南北に長し。面積二千二百五十九方里にして、人口約二百万を有す。政治區は臺灣總督府の下に、左の六縣三廳を置く。

臺灣區圖

臺灣區 { 臺北縣　新竹縣　臺中縣　嘉義縣　臺南縣
鳳山縣　宜蘭廳　臺東廳　澎湖廳

◎地勢　島の中央より稍々東側に偏して、地形に從ひ南北に連る高峻なる中央大山脈ありて、脊梁を作せり、此の脈、島の中部に於て最も高峻となり、其の最高點は嘗て玉山又はもりそん山と稱せしが勅して新に名を新高山と賜ふ、海拔一万三千六百七十九尺にして日本第一の高山なり、故に此の脈を新高山脈と稱すべし。其の北の高峯をシルヴィア山と稱し、海拔一万一千三百餘尺なり其の他一万尺以上の高山二三峰あり。本島は此の新高山脈の爲め地勢自ら東部及西部に分る。東部には支脈錯出して、山深く平地に乏しく、峽間所々に蕃族の巣窟ありて、從來全く暗黑界なりしが、我が領に歸してより、內地人續々探撿せり。西部は地域頗る開け海濱に近づくに隨ひ肥沃の平野あり、臺西平原是れなり、此の平原は一般に河流灌漑の便ありて、田圃相連り、臺灣主要の部なり。

○本島の北部には一の火山彙あり、此の脈は西方澎湖島より來り淡水港に近く觀音山ありて、其の北の大屯山頂には噴火口あり、其の東南に燒山（一名三貂山）あり、數多の噴火口を有す、此の脈附近所々に硫黃泉涌出し、遂に東に趨りて、琉球帶の裏面に連れり。

◎**水系**　水流は新高山脈によりて、太平洋及臺灣海峽に分配せられ、長大の河流なく、又流れ急に强雨に逢へば氾濫の憂あり。淡水河は本島第一の大河にして、上流を大姑陷河（大嵙崁河）と云ひ、ヴィア山の北麓に發し、北流して、新店川、基隆川を合せ、淡水港を過ぎて海に注ぐ、灌域は島中第一の農産地なり、河口より猛艃に至るまで小漁船上下せり。上流には奇巖峙ち梅樹之に生じ風景愛すべし。

○臺灣海峽に注ぐものには大甲溪、大肚溪、濁水溪、等あり皆灌漑の利ありて農産物多し。太平洋に注ぐ水は數多の溪流をなせども更に記すべき河なし。

◎**沿海**　本島の海岸は屈曲甚だ尠し、東岸は概して斷巖急に海に迫りて數千尺の嶮崖をなし（近時の實査によれば世人が想像せる如く嶮崖多からず）港灣少く、唯東北部に在る蘇澳灣は水深く稍々船舶の碇泊に便なり。其の南の花蓮港は僅に船を寄するに足るのみなり。西海岸は諸川より吐出する泥沙堆積して、沿海一帶の遠淺となり、港灣に乏しく、僅に安平、打狗、鹿港等あり、安平、打狗の兩港は開港場なれども、良港とは謂ひ難し。

○北海岸には基隆、淡水の二開港場あり。基隆は本島第一の良港と稱せられ、港内廣く大船巨舶を容るべしと雖ども、東北風を防ぐ可からず、當今内地との往復は概ね此の港に依る。淡水港は淡水河口を溯る半里餘、滬尾に在り、砂洲堆積すれども之を渫は

ゞ良港たるべしと云ふ。北方海岸の最東に突出する、三貂角は明治二十八年五月北白河中將宮の近衞師團を率ゐて初めて上陸せられし地なり。

○本島の極端を南岬と云ふ是れ本邦の最南端にして西は南西岬と相對し、南灣を擁す、此の灣は東北の定期風には碇泊に便なれども、西南の定期風には船を繫ぐ可らず。

○臺灣海峽に澎湖群島あり、重なる島を澎湖島、白砂島、漁翁島とす。澎湖島の馬公港は臺灣第一の良港と稱せらる、港口に砲臺及燈臺あり。

◎處誌　本島は我が戰國の頃より屢々邦人の來航する者ありて、既に其の一部を略取し、高砂島、或は中蜻島と稱したり、其の後、和蘭人一時之れに據れり、又明人鄭成功も此の島に據りしが我が

臺北市街

紀元二千三百四十三年全く清領に歸せり、近年劉銘傳、劉永福等之を治めしが、馬關條約によりて皇化に浴するを得るに至れり。此の地は其の位置軍事上南門の鎖鑰たるのみならず、商業上亦た有望の地なり。將來本島を誘導して南溟の藩屏となし、以て其の富源を啓發するは實に我が後進者の任なり。

◎臺北縣　島の北部を領し島内の主要地なり。

○臺北府は淡水河の流域を占め、島内の

一大都會なり、清領の頃台灣省の首府たりしが、明治二十八年六月十四日樺山總督初めて總督府を開始し、爾來本島の首都となり、混成第一旅團、覆審院及臺北縣廳を置く、市街清潔、家屋は多く煉化の二階造にして道路廣く甚だ殷賑なり。鐵道は府の北邊を通じ、東は基隆、西は新竹に至り交通便なり。此の地は周圍に城壁を繞らし、市を城内、城外に分つ、西城外に艋舺の一大市街あり、淡水河に臨み商店櫛比し、國語學校あり。北城外の一大市街を大稻程と云ふ臺灣第一の茶市場にして、各地より此の地へ輸送し、再び精製して淡水港より支那の厦門地方へ輸出す。此の二市街は共に繁華にして臺北と合せて人口四万あり。基隆港(一に雞籠)は臺北の東九里に在る開港場にして、山岳三面を圍み、北、外洋に向て通じ、南、内地と交通の門戸なり、長崎を距る六百三十七

浬あり、定期船往來す、陸には鐵道の便ありて市街繁華なり、輸出品の重なるものは石炭とす。此の地は清佛戰爭の時、一時佛軍に占領せられたり。淡水港(一に滬尾)は淡水河口より十八町餘の上流に在る開港場なり。茶及樟腦は重なる輸出品とす、基隆へ航程三十九浬、此の地より支那の福洲へ海底電信線あり。

基隆港之圖

◎**新竹縣** 北は臺北縣、南は臺中縣に接する一區劃なり。

○新竹は新竹縣廳所在の地にして、臺灣鐵道は現今此の地まで通ぜり。

苗栗は其の南部山間に在る一大邑なり、附近樟腦の産出多し。

◎臺中縣　本島西部の中央を管す、北は新竹縣、南は嘉義縣に隣す。

○臺灣府は縣廳所在地にして、大肚溪畔に在り、住民未だ多からず、混成第二旅團司令部を置く、此の地は清國政府が嘗て臺灣省の首府とせしが、地理の不便なるが爲め今の臺北府に遷したり。彰化は其の西南に在り人口凡二万、臺中縣第一の都會なり。鹿港は彰化の西南に在り、支那大陸に對し海程最も近く、東は彰化、臺灣府等を控ゑ、貨物の集配所にして支那船の桅檣林立す。埔里社は東部峽間に在る大邑なり。

◎嘉義縣　臺中縣の南、臺南縣の北を管轄す。

○嘉義は東新高山脈に近く西は廣濶の農産地を控ゑ現今未だ繁華ならざれども、縣廳所在の地なり。雲林（街ヨ六）は其の東方山間

に在る名邑にして、曾て土匪猖獗を極め、全市兵燹に罹れり。

◎臺南縣　嘉義縣の北方にあり、南は鳳山縣に接す。

○臺南府は本島の西南部平野に位し、臺灣第一の大都會なり。往時久しく本島の中央政府の在りし地なり、今は縣廳及混成第三旅團司令部を置く、人口十五万を有し、南部商業の中心とす、府の周圍は城壁を繞らし、市街繁華にして、家屋壯麗なり。安平港は臺南府の西一里餘に在る開港場なり、輸出品の重なるものは米砂糖、樟腦等なり、此の地は古代より外國との貿易を開きたる所なれども、港内水淺く船舶の碇繫に不便なるを以て貿易盛ならず。

◎鳳山縣　本島最南の一縣なり、北は臺南縣に接し、南は恒春地方を管轄す。

○鳳山は臺南府に次げる南部の都會にして縣廳あり、市内製糖業盛なり。打狗は鳳山の西三里餘に在る開港場なれども、水淺く大船を泊す可らず、輸出品の重なる物を砂糖とす、此の地の繁華は漸次安平に移る傾きあり。恒春は極南の都邑なり。瑯嶠港は其の西方にある一港にして明治七年五月我が臺灣征討軍の上陸せし地、牡丹社は恒春の北方にあり、明治七年我が軍の討伐せし所なり。東港は下淡水河口の一良港なり。

宜蘭廳

◎宜蘭廳　北は台北縣に接し、南は台東廳に境し、島の東北部を占む。宜蘭は沿海の一都邑にして、宜蘭廳の在る所なり。蘇澳港は宜蘭の南にあり、水深き良港なり。

臺東廳

◎臺東廳　本區は島の東部一帶蕃人の住する地域を管轄し、本島中最も未開暗黑の地なれば其の狀況審ならずと雖ども、蕃族の

部落を何社と稱し、其の數、百餘ありと云ふ。卑南は南部の卑南大溪の平野に位し、臺東廳の在る所なり。

澎湖廳

◎澎湖廳　澎湖列島を管轄す此の群島は海峽の要衝に當り、昔邦人の占領する所となり、眞砂島或は小蜻嶼と稱したり。清佛戰爭の時、佛兵一時根據地とせしことあり、島民約七千、僅に魚貝及馬鈴薯、玉蜀黍、落花生等によりて生活せり。馬公城(一に馬宮城)は澎湖島に在り、島廳を茲に置く、戶數七八百、澎湖列島中第一の名邑なり、明治二十八年三月勇敢なる比志島支隊始めて此の地を占領せり。

交通

◎交通　本島の交通は從來最も不完全にして、道路修まらず、且河流の運輸を資くるなく、人事天然共に交通を妨げたり。西部平野には狹隘の徑路なきにあらざれども、河流には橋梁なく、降雨

一たび漲れば忽ち交通を絶つに至る、況んや東部の如きは山岳重疊し、僅に溪間の蕃民時々獸獵の爲め跋渉するのみなり。沿海は從來支那と帆船の往來せしに過ぎざりき、近時に至り內地の各港と定期航海を開き、西海岸、東海岸を巡るの船舶あり、然れども風波一たび怒れば、甚だ危險の虞あり。鐵道は北部の臺北より、東は基隆(二十哩)に至り、南は新竹(四十哩)に到る六十哩に過ぎず。其の構造も不完全にして速力甚だ遲緩なり。以上述べたるが如く、交通甚だ不便なれば、本島をして速に發達せしむるには、道路の開通、鐵道の布設最も急務なりと云ふ。

◎**氣候** 本島の南部は熱帶に屬すれども、他の熱帶地方の如く炎熱甚だしからず、是れ全く島地なるによれり、全年の平均溫度は二十一度乃至二十四度にして、九州の南部地方より高きこと五

度乃至九度なり。夏季は二十七度より二十九度を平均とし、時に三十七八度に昇れども、山頂より涼風吹き下りて暑熱を掃ひ夜間は殊に冷氣を覺え人の健康に適せず。冬季の平均溫度は十三度乃至十九度なれども、東京四五月の溫度に比すべし。晴雨は常に定まらず、特に北部は降雨甚だ多く內地には斯の如き多雨の地なし、而して秋冬に最も多く春夏には少し。風は夏季西南の氣候風吹き、冬季は北東の貿易風吹けり、風威概して强く、殊に一月を最もとす、夏秋の交には屢々颶風初起の猛威を被り、怒濤沿岸を洗ひ、危險多し。

◎**產業** 本島は熱と水蒸氣との爲め各種の產物に富み、支那、海中の金庫と稱せらる、就中茶、砂糖、樟腦、石炭の四種は本島の四大產物と稱す。茶は專ら北部に栽培せられ一ヶ年七回摘葉し得べ

く、良好の烏龍茶として各國に配送す。砂糖は南部を主とし、其の産額甚だ多く、曾て清國の一財源となり、多く我國にも輸入したり。樟腦は中央の山中より出し、又各國に輸出す。石炭は全島概ね産すれども、北部基隆附近は有名の産地なり。其の外各種の農産饒なり、殊に米と甘藷は有名にして、共に一年二回の收穫あり、藍、烟草、落花生、胡麻、生姜、鳳梨、檸檬等の産甚だ多し。林産には樟樹の外、杉、松、及無花果樹、榕樹等の熱帶植物蔚蒼たり。動物には内地に産せざる豹、山猫、水牛あり又鹿、猪は最も多く、鳥類は鷄、鴨等多く、食用に供すべし。海産には

臺灣人揀茶之圖

海參、牡蠣等あり。鑛物には石炭の外石油、硫黄、砂金等を産す。要するに本島は各種の天産物に富めども、産業未だ盛ならず、天然の寶庫未だ其扉を開かざるものあるべく、將來我國の大財源地となる亦難からざるべし。

◎**住民** 本島の北部及西部平原の住民は嘗て支那より移住せしものなれば、風俗習慣支那人と異るなし、是れ所謂臺灣人なり、東部地方の住民は前者と頗る異にして、之を生蕃と稱し凶暴なる蠻民にして殺戮を嗜み、支那人を疾むこと甚しく、特に木瓜、太老閣の二生蕃の如きは、好んで首狩をなし、首級を多く得るを以て榮とす。生業は專ら獸獵及漁業をなし、傍ら農業を營む。又熟蕃と稱するは耕作、魚漁を營み、性愚直なりしかども、今は全く支那人の弊風に感染し、甚だ狡猾となれり。

臺灣之家屋及土人之風俗

○此れ等の人種は何地より移住せしや詳ならずと雖ども、其の東岸に沿ひて南より流れ來る、洋流に漂ひて、比律賓其の他の群島より來れる馬來種ならんと云ふ。

◎風土比較　本島の脊梁たる新高山脈によりて東西兩部に分ち、形勢風土を比すれば左の如し。

西部	東部
○東は新高山脈を負ひ、西は臺灣海峽に臨み、河流多く西流す。	○西は新高山脈を負ひ東は太平洋に瀕し、河流多く東流す。
○沿海は遠淺なれども。二三の碇泊に便なる港灣あり。	○沿海は絶壁にして。碇泊すべき港灣に乏し。
○平坦なる沃野多く、生産力に富み住民多し。	○山岳起伏して平野少く、生産地開けず。
○交通未だ不便なれども、漸次開通せんとす。	○交通嶮惡にして、通過甚だ困難なり。
○從來支那政治の下に服し、住民稍々開發進歩せり。	○從來支那統治の及ばざる所にして、野蠻暴戾なり。
○東西交通の水道に臨み、大陸と一葦水を隔てゝ古來屢々外敵の襲來を受けたる歴史あり。	○南來の洋流を受け、比律賓群島と氣脈を通ぜし遺跡を存すれども、歴史上著しき出來事なし。

第參編

人文地理

◎人誌　我が國人種の起原に就ては種々の說あれども、蒙古人種なる大圖に入るは疑ひなきが如し、然れども邈遠の星霜大陸の絕東に卓立して、大陸種族との因緣を斷ちしを以て、其の氣風、習俗自ら他と異りたる種族、即所謂大和種族なるものを養成せり。此の種族は大率此の國土を開き玉ひし、國祖の後裔にして、一團の家族に異ならず、開闢以來長へに國運を扶翼したる種族なり。其の外現に北海道の一隅に存する『アイヌ』種あり、此の種族は太初殆ど國の大半に散在して、其の勢盛なりしかども、今や漸次其の數を減ぜり。國運の隆盛に從ひ、臺灣の諸種族も新に我が臣

民となり、未だ洽く皇化に潤はざれども、漸次忠良の臣民となること遠きにあらざるべし。

○人口　我が國の人口は國土の廣さに比すれば、甚だ稠密にして、最近に於て四千二百二十七万あり。而して、其の增殖頗る速にして、一ヶ年の平均增加は三十八万人に上り、百年の後には今日の二倍に達すべき割合なり。又所によりて疎密の差あり、其の最も密なる所は近畿にして、一方里に付五千七百人に當り、次ぎは關東平原にして、次ぎは濃尾平原なり、其の最も疎なる所は北海道にして、僅に六十二人に過ぎず。全國を平均すれば一方里に付一千七百〇三人に上り、其の稠密なること世界に稀なり。

○此の外臺灣は未だ精密なる人口調査なけれども、概畧二百万人に下らざるべしと云ふ、然れば我が國現今の總人口は既に四千

五百万内外にあるべし。

○**風俗**　我が國風は古來質朴を貴び、衣、食、住ともに華美を避け、淡白質素なりき。近時西洋各國と交際せしより、從來と趣を異にし、生活の程度の高まると共に華奢に流るゝの傾向あり。

○我が國固有の衣、食、住は總て我が國土自然の勢力に養成せられたるものなり。即衣服は氣候溫暖なるを以て、寛濶なる日本服となり。食物は我が氣候土地の稻作に適するを以て、食米人種となり。住居は良材至る所に多きを以て、木造とし、夏は開通して清風を入れ、冬は閉鎖して寒氣を、防ぎ、又蔀及障を以て風雨を防ぐ等皆我が氣候に相應するが爲めなり。

○**氣質**　我が國は氣候溫順なると、山水の秀美なるとにより、人心自ら融和し、優美にして技術に長じ、敏捷にして學藝を好めり、且

誠實にして、忠君愛國の心厚く、一旦事あるに當りては水火を踏むをも辭せず、是れ所謂大和魂（やまとだましひ）なる特有の美質なり。但輕快にして持重に乏しく、新奇に趨りて事に倦み易く、規模總て狹小にして、宏遠壯大の氣象を缺くの通弊あり、是れ深く各自に戒めざるべからず。

○**宗教**　信奉は自由にして、一定の國教なし、現今、神道、佛教、及基督教は國民の間に信奉せらる。

○神道は皇祖皇宗の御威靈を奉祀し、或は國家に勳功ありし有德の君子等を尊崇するものにして、宗教以外の派と宗教に屬する派とあり、全國の神社の數十九万あり。

○佛教は其の傳來遠く一千二百年以前にありて、我が國の風俗、文化其の他百般の事物に影響を與へたること尠からず。其の宗

派には天台、眞言、淨土、臨濟、曹洞、黃檗、眞宗、日蓮、時、融通念佛、法相、華嚴の十二宗あり、其の中眞宗最も盛なり。全國の寺院は七万一千八百、僧尼の數五万三千餘あり。

○基督教は初めて足利氏の末葉に渡りしかども、一旦國禁となり、維新後再び禁を解かれ、漸次國内に傳播せり、最も盛なるは新教とし其の他、舊教、希臘教等あり。全國會堂の數は八百八十餘、傳道師の數は一千六百人にして、信者の數九万五千餘に上り、臺灣にも亦三千餘の信徒ありと云ふ。

○教育　我が國は古來皇祖皇宗の遺訓に遵ひ、人倫の大道夙に確定し、忠孝を以て教育の大本と定め、氣候の和と山水の美とは自ら性情を和順ならしめ、道德上の觀念、次第に發達せり。德川幕府の時は教育の法なきにあらざりしかども、武士以上に限り、農

工商の如きは、僅に普通の讀み書き算盤に過ぎざりき。然るに明治維新の後は、西洋の文物輸入し來り、教育の法遽に一變し、國民一般に其の子弟を教育することゝなり、頗る普及の運に向ひたり。

○今日全國學校の總數は凡二万八千餘にして、生徒の數三百八十万餘あり。而して重なる公立學校は小學校、中學校、師範學校、高等女學校、高等學校、高等師範學校、各種の專門學校、及帝國大學等なり。其の内小學校の數二万六千六百餘にして、其の生徒の數は三百六十七万餘あり、全國學齡兒童の百分の六十一人は就學者とす。今各種學校の種類及其の關係を左に示さん。

- 高等女學校
- 高等師範學校
  - 女子高等師範學校
  - 尋常師範學校

大學院—東京帝國大學
　　—京都帝國大學
高等學校(五)—各種專門學校
　　—海軍兵學校
　　—陸軍士官學校—陸軍中央幼年學校—陸軍地方幼年學校
尋常中學校—尋常高等小學校—幼稚園
海軍大學校
陸軍大學校

○教育の進歩に隨ひ、圖書の出版、新聞雜誌の發兌、等愈々增加し、其の數年々數万の多きに達す。圖書の最近一ヶ年に出版せらるもの、二万七八千餘部に達し、新聞雜誌は七百五餘種に上り、此の部數約四億九百万部にして、一人口に付約九部に及べり。又一方には博物館、圖書館、動物園、植物園等の設ありて、教育の補助をなすこと尠からず。

◎**土地** 古來我が國の土地は、悉く帝室の御領にして、所謂率土の濱も王土にあらざるはなく、各々領主を置きて之を管せしめ、農民は全く小作者なりしが、維新以後は一般人民に土地の私有を許し、官有、民有の種類を分つことゝなれり。官有地の總反別は二千百三十九万三千餘町にして、民有地の生産反別は一千三百八十万九千餘町なり（此の地價合計十五億二千百五十万圓）而して民有地の田地反別は二百七十三万二千餘町にして、畑地は二百二十七万七千餘町なり。

◎**生業産物** 我が國は氣候の溫暖にして、雨量の多きと土地の肥沃にして、人口の稠密なるとにより、天産物豐饒にして各種の生業行はる、今其の概略を左に述ぶべし。

○**農産** 我が國は『瑞穗*ノ國』と稱し、最も穀産に富めるを表せり、且農は國の本として、世々之を奬勵せられたるを以て、農業は能く進歩したり。故に農民の數は實に全國人口の三分の二を占む

るに至れり、然れども田畑は五百万餘町にして人口の衆多なるに比すれば多しと謂ふべからず、其の産物も悉く國民の消費するに過ぎず。

○農産物中最も多額を占むるものは米にして平年産額（以下全之）四千万石（一人に付約一石）に上れり、次ぎを麥とし平産一千七百万石に達せり、是れを穀物の二大産とす、大小豆は約八百五十万石を産し、粟二百二三十万石及蕎麥（百二十万石）稗（百万石）黍（二十五万石）の産あり、其の外能く下層民を養ふ甘藷は殆と六億貫を産し、馬鈴薯、又四千五万貫を産せり、藍、綿、麻、烟草、砂糖、漆等も我が國産に數ふべきものなり。

○又蠶業は近年大に發達し、殆ど全國に亘り、産額も夥しく、蠶糸の平年産額は二百十万貫に上れり。之に次ぎ盛なるは製茶にして、最近の産額は八百五十万貫に達せり、此の外臺灣にも三百万

貫を産すと云ふ。此の生糸、茶の二品は輸出品中の最重要なるものなり。（輸出品表を見よ）

○工産　我が國民は意匠手工共に巧なるを以て東洋美術國の名を博せり。各種の製造業中にも機業最も盛にして、其の進歩も亦著しく、織物の最近産額は殆んど一億圓に上れり、絹織物の最も盛なるは京都、西陣を第一とし、福井、栃木、群馬の三縣之に亞ぎ山梨、東京、滋賀、亦之に亞ぐ、木綿織は愛知を最もとし、和歌山、埼玉、大阪之に次げり。紡績業も漸く進歩し、錘數七十五万個、綿糸の産額二千万貫に達す。

○釀酒は年額四百万石に上り、兵庫を以て最もとし、次ぎは愛知、福岡、長野等なり。醬油の産出額は一百四十万石にして、最も多きは千葉なり。紙類の産額は九百万圓に上り、産出の最も多きは

高知とし、次ぎを愛媛、岐阜とす、西洋紙は東京、福岡、靜岡等より多く産せり、摺付木製造も亦近頃盛大にして、五百五十万圓を出し、兵庫の産出は全額の過半を占む、次ぎは大坂、愛知、東京等にして、多く支那、朝鮮、印度等へ輸出す。陶磁器は産額四百八十万圓に上り、愛知、岐阜、京都、佐賀、石川等産額頗る多く、海外輸出品の重要なるものなり。

○其の他製革（大阪、東京、兵庫）疊表類（岡山、廣島、大分）漆器、裝飾品等は重要製造品なり、然れども規模宏大の機關によりて、製造するものは未だ總て幼稚なり。本邦は最も工業に適する諸資格を備ふる國なれば、將來東洋の一大工業國たることを期せざるべからず。

○**林産** 森林の富は獨り木材、薪、炭、等の材料たるのみならず、國土の風景を添へ、氣候を調和し、水源を涵養する等の副効あり。我

國は甚だ林産に富める地なり、到る所に茂林の綠滴んとするを見ざるはなし、中にも陸奥、羽後、兩野、信濃、（木曾）越中、伊豆（天城）駿河、遠江、伊勢、大和、紀伊、日向等には大森林あり。特に木曾、紀伊、大和、天城、の諸山は良材豐富を以て名あり。森材の段別は一千八百十三万町歩あり、其の立木の數無慮、四百億本以上に上れり、即一人口に付殆ど一千本の割合なり。

○**畜産** 我が國は牧畜に適せざるにあらざれども此の業は未だ發達せず、近時肉食論盛なるに從ひ、牧畜業も漸く進まんとす。畜産中最も重要なるものは牛、馬にして、近年外國の良種を輸入して頻に改良を計れり、全國牛の頭數は一百十三万にして馬は一百五十三万頭なり、牛の産地は九州、中國に多く、特に但馬は著名の産地とす、馬は奥羽及九州を主産地とす、豚の飼養盛なるは東

京、千葉、長崎、鹿兒島、沖繩及臺灣等なり。牧羊は千葉及北海道に稍々行はれ、臺灣には水牛を飼養す。

○**水産** 我が國は四面海を環らし、極めて魚族に富めり。漁場の面積は耕地の面積よりも遙に廣く實に無盡の富源と謂ふべし。特に北海道の沿海は世界三大漁場の一と稱せらる。現今全國漁業者の數は三百三十万餘人にして、總人口の十二分の一餘に當り、其の産額は三千六百五十万圓なり。魚類の産出最も多きは北海道の鯡（八百万圓）を第一とす。又鰮、鰹、鯛、柔魚、鮭等は各百万圓以上の産額あり、此の外北海道には臘虎、臘肭臍、及各所の沿海には鯨等を産すれども其の捕獲割合に少し。

○我が國水産の富は魚貝、海藻、製鹽を始め、陸産に劣らざれども、魚漁法宜しきを得さると、資本の不足なるとによりて、規摸小にして、其の富は空しく海水に附與せしが、近時遠洋漁業奬勵法を始め、着々之か改良進歩を計り、海國當然の富を探らんとす。

○**鑛産** 本邦は地質の錯雜せるを以て、種々の鑛物に富めり。特に重要なるは石炭、銅、鐵にして、石炭は年額四百七十五万頓（價額一千一百五十万圓）に上り、九州の西北部及北海道の西南部に埋藏すること最も多し、銅は年額五百万貫に達し、世界第三位の銅産國なり、多く海外へ輸出す、下野の足尾、伊豫の別子は重もなる産地なり。鐵は從來産額多からざりしかども將來有望の一鑛にして、既に製鐵所の設けあり。銀は右三鑛に次ぎ年額一万九千貫を産し。金は二百四十貫餘を産せり、其の他硫黄の産額は世界第二位を占むれども往々第一位に進むべし、安質母尼は佛蘭西を除けば我が國に及ぶ所なし。又大理石、花崗岩、粘板岩等の石材、水晶、瑪

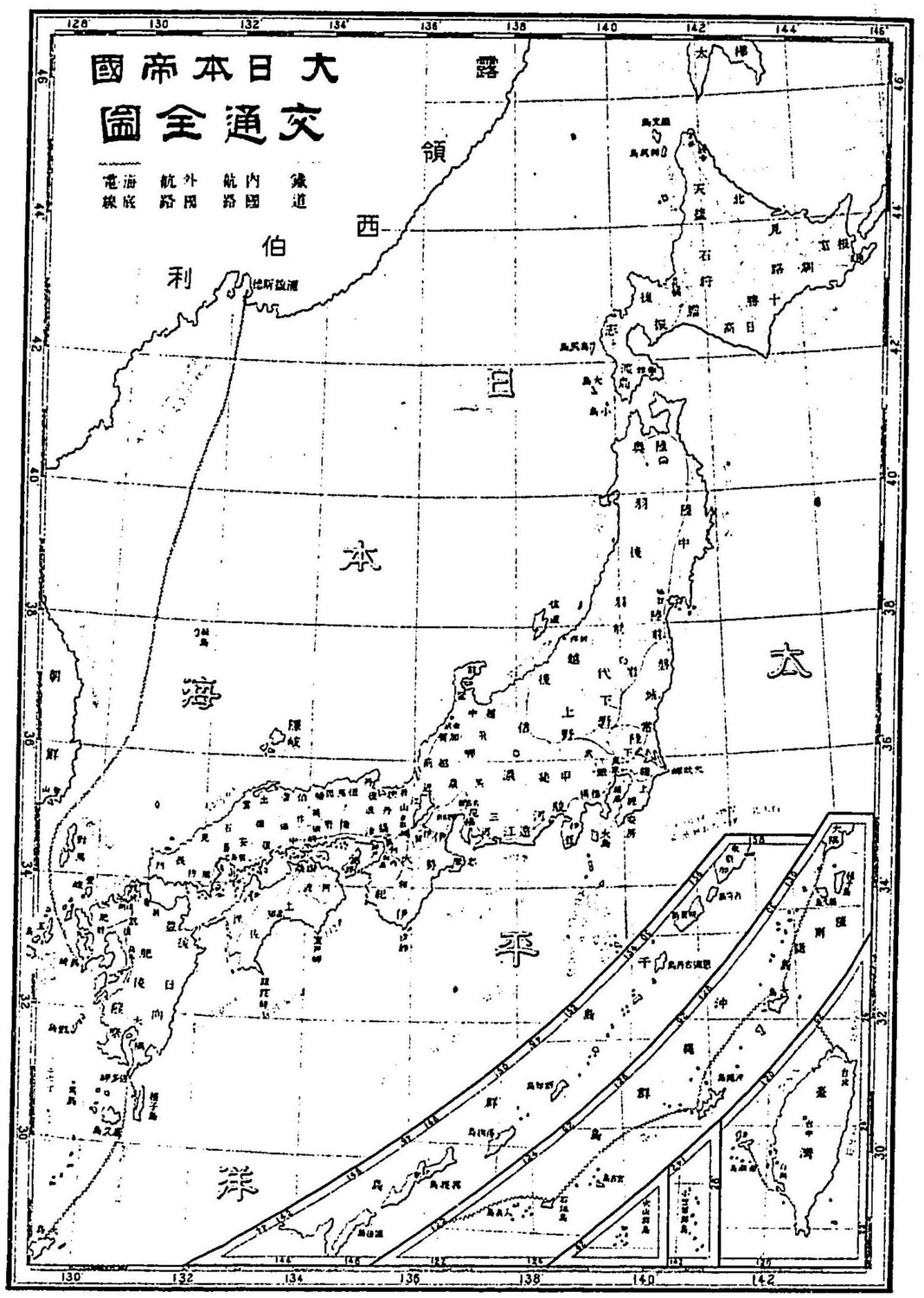
瑙、等の寶石及石油、陶土等の産あり。

○商業　我が國封建の世に在りては、各、一地方を區劃して、交通不便なるが上に通貨も一樣ならず、有無相通ずること少く、從ひて商業は一小區に限られたり、近時此の區劃を去り、全國比隣の如く、物貨の共通繁く、商業甚だ活潑なるに至れり。商賣の最も盛なる地は東京、大阪、京都を首とし名古屋、仙臺、德島、廣島、熊本の各市とす。是れ等の地は其の近傍に廣大の生産地を控ゑ、交通の便備はりて、貨物の集散配送所たり、殊に東京は全國貨物の聚散所にして、大阪は關西商品の輻湊する所なり、是を我が國二大商業地とす。此れ等商業地には必ず、商業の機關たる銀行、會社、取引所及運送會社等悉く具備し、一方には金銀貨幣の融通を圓滑ならしめ、一方には貨物運輸の便を資く。

○外國貿易も年々進歩し、萬國共通の實擧がり、英國の鐵を敷きて瀛車を飛ばし、印度の綿を着て米國の麥粉を喫し、露西亞の石油を焚きて、獨逸の書を讀むと仝時に又露帝の卓袱に西陣の絹布上り、巴里の酒壜に正宗の瓶詰を見、日本海の魚貝を以て蒙古人を養ひ、足尾の坑を出でゝ支那の銅貨となるに至れり。

○此れ等貨物の貿易場は横濱、神戸、大阪、長崎、函館、新潟の六港にして、此の外特別輸出港十餘ヶ所あり。貿易の最も盛なるは横濱、神戸の二港とす、二十九年の輸出入總額は二億八千九百万圓に上り、内輸出一億一千七百万圓にして、輸入一億七千一百餘万圓なり。

○今重要の輸出入品及價額を擧ぐれば左の如し。



重要輸出品

蠶糸、繭及綿類	三一、六五五、〇〇〇円
石炭	八、八七九、〇〇〇
穀物及麥粉	八、二二三、〇〇〇
絹布類	七、四一六、〇〇〇
製茶	六、三七二、〇〇〇
銅	五、五一二、〇〇〇
摺付木	四、八九六、〇〇〇
絹製手巾	四、六一七、〇〇〇
綿織糸	四、〇二九、〇〇〇
地蕗類	三、〇五六、〇〇〇

重要輸入品

棉花	三二、五七三、〇〇〇円
毛布類	一四、二三二、〇〇〇
砂糖類	一三、八五三、〇〇〇
鐵及鋼類	一二、一六五、〇〇〇
綿布類	一一、五一三、〇〇〇
綿織糸	一一、三七二、〇〇〇
穀物及麥粉	一〇、二四七、〇〇〇
機械類	八、八八三、〇〇〇
石油	六、三三一、〇〇〇
藥種及化學品類	四、〇〇九、〇〇〇

○今日我が國と貿易する國は二十一ヶ國にして、貿易の最も盛なるは第一英國にして（從來米國一位を占めしが二十九年は英國なり）輸出入額五千九百万圓に上り、内我れより輸出する額は九百万圓に達し、彼れより輸入す

るもの多く綿布、綿織糸、は其の重なるものにして、我れよりは絹類、米穀を出す。第二は米國にして、貿易額四千七百九十万圓に上り、内我れより輸出する額は三千一百万圓に達し、生糸、茶は重なる貿易品にして、彼れより石油、繰綿等を輸入す、即米國は我が物品を購求することに於て第一の花客なり。第三は支那にして貿易額三千五百万圓に達し、我れの綿織糸、石炭、彼れの綿花、油糟を重なるものとす。第四は英領香港にして取引額二千九百万圓、貿易品は我れの摺付木、銅類、彼れの砂糖は重なるものなり。第五は英領印度第六佛蘭西、第七は獨逸第八は朝鮮とす。

◎交通　交通の便否は直に國の文野に關す、我國維新後は鋭意交通の便を圖り、封建時代とは大に其の趣を異にせり、交通機關は道路、鐵道、郵便、電信、電話、船舶等なり。

○道路　全國の道路は國道、縣道、里道の三種に分つ。國道は東京より道府縣廳幷に伊勢大廟に達する線路と、道府縣廳と各師團とを連絡する線路を云ふ。縣道は各府縣廳を連絡し、師團と營所とを通じ、各府縣廳より市郡區役所に達する線路なり。里道は各村落の間を通ずる線路を云ふ。

○鐵道　交通機關の最も重要なるものは鐵道なり、我が國鐵道の起原は明治五年東京、横濱間に敷設したるを始めとし、今や全國の各要所に通じて、其の延長二千九百哩に達し、尚工事中の線路頗る多し。我が國現時の汽車は一時間凡二十哩を走り、百哩の長程も尚五時間にして走るべし、故に鐵道より享くる便益は豫想の外に出づるものありて、鐵道の布設ある地と布設なき地とは其の發達に大差あり、（各鐵道の連絡は圖に據りて之を見よ）

○郵便　古昔各地の音信を通ぜんには、不完全なる飛脚屋と稱するものによりて、僅に其の用を便じたりしが、明治四年郵便の創設以來音信至る所通ぜざるはなく、其の用次第に弘まり、現時一ヶ年の郵便物數五億四千三百三十餘万個に上り、一人口に對して平均十二通に當れり。

○電信　明治二年創設し、既に全國の重なる都邑に通じ、一年の電信數は一千一百万通に及べり。

○電話　明治十八年始めて架設し、未だ東京、横濱、大阪、神戸の四市に限れり。

○海運　海運事業も近時著しく進歩し、日本郵船會社、大阪商船會社を始めとし、百餘の河海運輸會社ありて、蒸汽船の數五百七十艘、積載噸數二十二万七千に達し、之に西洋形帆船を加ゆれば二

十五万噸に垂んとす。沿海の重なる諸港には船舶の往復せざるはなく、外は支那、朝鮮の各港及浦鹽斯德を初めとし、西は遠く亞細亞西南岸の要港を經て、歐洲に達し、南は濠洲に到り、東は遙に米國に定期航海を開くに至れり。

◎**國體及政體**　我が日本國は開闢以來萬世一系の天皇の統治し玉ふ帝國にして君主國躰なり、上には尊榮なる　帝室を戴き、下には億兆の臣民皆其の恩澤に浴し、一國の團欒恰も一家族に異ならず、故に或は我が帝國を血族國家と云ふ。斯の如き國家は世界廣しと雖ども、其の比類なく、皇運の隆盛なること天壤と共に窮りなし。

○政躰は明治二十三年二月紀元の佳節を以て憲法を發布せられ、專制政躰を改め、立憲政躰と定められたり。政權は帝國憲法により、立法、行政、司法の三大權に分つ。

○立法部は帝國議會と稱し、別れて貴族院、衆議院の兩院となる。貴族院は皇族、華族、及國家に勳功あり、又は學識ある敕撰議員、各府縣一名の多額納稅議員を以て組織し。衆議院は各府縣に於て、直接國稅十五圓以上を納むる者より公撰せられたる議員、總て三百人を以て組織す。

○行政部は其の最高府を內閣と云ひ、各國務大臣(各省大臣)を以て組織し、內閣總理大臣を以て首班となす。內閣の下に外務、內務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信の九省あり、國務大臣一人各々其の長官たり。別に帝室の事を奉掌するを宮內省とし其の長官を宮內大臣とす、又　天皇陛下の至高顧問府として樞密院あり、國家の元老を以て其の顧問官に任ず。帝國の會計を監督する

所を會計檢査院と云ふ。

○地方行政は三府四十三縣に分ち、即ち府縣の長官を知事と稱し、其の管内を統轄す。各府縣の下に郡、市、町村、の區劃あり、郡に郡長を置く。市町村は自治制にして、其の長を市長、町長、村長と謂ふ、皆公撰にして、其の管内の事務を掌る。又府縣以下其の意思を代表する機關あり、之を府縣會、郡會、市會、町會、村會と云ふ。北海道は北海道長官、全道を統轄し其の下に區長、郡長あり。臺灣は臺灣總督府を置きて全道を統治せしめ、其の下に六縣三廳あり。

○司法部は裁判官を以て組織し、最高裁判所を大審院と稱し、東京に置き、其の下に七控訴院あり、東京、大阪、名古屋、廣島、仙臺、長崎、函館に置く。又各府縣には一個の地方裁判所ありて、其の下に三

百餘個の區裁判所を置く。臺灣には高等法院、覆審院及各地方法院を置く。

◎國防　我が國防線は甚だ長くして、總て海防線なり。帝國の軍隊は天皇陛下の統治し玉ふ所にして、分ちて陸軍、海軍とし、全國皆兵の制なり。故に帝國臣民は男子は滿十七歳より四十歳迄皆兵役の義務あり。兵役は分ちて常備兵役、後備兵役、補充兵役、國民兵役、の四種とす、各兵役年限等左の如し。

- 常備兵役
  - 現役
    - 陸軍三年
    - 海軍四年
    - 滿二十の男子
  - 豫備役
    - 陸軍四年
    - 海軍三年
    - 現役を終りたるもの
- 後備兵役
  - 陸軍
  - 海軍
  - 共に五年、常備兵役を終りたる者之に服す

補充兵役
- 陸軍
  - 第一補充兵役—七年五ヶ月—現役兵員に超過する者
  - 第二補充兵役—一年四ヶ月—第一補充兵員に超過する者
- 海軍——一年——現役兵員に超過する者

國民兵役
- 第一國民兵役——後備兵役及第一補充兵役を終りたる者
- 第二國民兵役——常備兵役、後備兵役、補充兵役及第一國民兵役を終りたる者

○陸軍。日本全國を十三師管に區別し、一師管に一師團の兵を備ふる制なり。一師管を更に分ちて、二旅管となし各旅管に一旅團の兵を置く。更に一旅管を分ちて、二聯隊區となし、各聯隊區毎に一聯隊の兵を置く、故に全國に二十六旅團、五十二聯隊區あり。但臺灣は以上の管區外にして、混成三個旅團を置き其の守備に任ず。

○兵種は歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵、屯田兵、憲兵、鐵道隊、軍樂隊等に

して、全國各要地に配備屯駐せしむ、又要所に要塞砲兵あり。小笠原、佐渡、隱岐、大島、(大隅)沖繩、五島、對馬には警備隊を置く　全國の兵備配布左表の如し。

都督部及師團、旅團、聯隊所在地

都督部	師團	師團所在地	旅團	旅團所在地	歩兵聯隊配備地(地名の下は聯隊號)
東都督部(京東)	近衛師團	東京	近衛第一旅團	東京	東京(一)
			近衛第二旅團	東京	東京(三)佐倉(四)
	第一師團	東京	第一旅團	東京	東京(一)松本(一五)
			第二旅團	東京	東京(二)高崎(三)
	第二師團	仙臺	第三旅團	仙臺	仙臺(四)仙臺(二九)
			第十五旅團	新發田	新發田(一六)村松(三〇)
	第七師團	札幌	第十三旅團	札幌	
			第十四旅團	根室	
	第八師團	弘前	第十六旅團	秋田	秋田(一七)山形(三二)
			第四旅團	弘前	弘前(三一)弘前(五)
中都督部(大阪)	第三師團	名古屋	第五旅團	名古屋	名古屋(六)名古屋(三三)
			第十七旅團	豐橋	豐橋(一八)靜岡(三四)
	第四師團	大阪	第七旅團	大阪	大阪(八)大阪(三七)
			第十九旅團	伏見	伏見(三八)大津(九)
	第九師團	金澤	第六旅團	金澤	金澤(七)金澤(三五)
			第十八旅團	敦賀	敦賀(一九)鯖江(三六)
	第十師團	姫路	第八旅團	姫路	姫路(一〇)鳥取(四〇)
			第二十旅團	福知山	福知山(二〇)姫路(三九)

西部都督部（小倉）			
第五師團	廣島	第九旅團	廣島
第六師團	熊本	第二十一旅團	山口
第十一師團	丸龜	第十一旅團	熊本
第十二師團	小倉	第二十三旅團	大村
		第二十二旅團	丸龜
		第十旅團	松山
		第十二旅團	小倉
		第二十四旅團	久留米

廣島（一一）	廣島（四一）	久留米（四八）	福岡（二四）
山口（四二）	濱田（二一）		
熊本（一三）	鹿兒島（四五）		
大村（四六）	熊本（二三）		
丸龜（一二）	丸龜（四三）		
松山（二二）	高知（四四）		
小倉（一四）	小倉（四七）		

○海軍。全國（臺灣を除く）の海岸及海面を五海軍區に分ち、各海軍港に鎭守府ありて、其の軍區を管轄し、數多の軍艦之に分屬す。各鎭守府には海兵團ありて、軍艦乘組員の屯在所とす。現今帝國軍艦の數は四十三隻にして、此の噸數十万四千噸なり。內富士、八島の二艦は各、一万二千餘噸、長さ三百七十呎にして、帝國軍艦中の最大艦なり、次ぎは清國より收容したる鎭遠とし、松島、嚴島、橋立、高千穗、浪速、吉野等の諸艦は何れも二十七八年役に軍功あり、名譽艦の重なるものなり。

海軍區、軍港、鎭守府所在地及管轄區域

區劃	軍港	鎭守府	管轄區域	海岸延長浬程
第一海軍區	相模國橫須賀港	橫須賀鎭守府	陸奥九戸郡下閉伊郡界より紀伊國南牟婁東牟婁郡界に至る海岸海面及小笠原島海岸海面	一、〇五七浬
第二海軍區	安藝國吳港	吳鎭守府	紀伊國南東牟婁郡界より石見長門國界まで又筑前豐前國界より日向大隅國界に至る海岸海面及四國海岸海面並に內海	二、〇六七浬
第三海軍區	肥前國佐世保港	佐世保鎭守府	豐前筑前國境以西九州の西海に沿ひ日向大隅國境に至る海岸海面及壹岐對馬沖繩諸島の海岸海面	一、四九七浬
第四海軍區	丹後國舞鶴港	舞鶴鎭守府	石見長門國界より羽後、陸奥國界に至る海岸海面及隱岐佐渡の海岸海面	一、〇五五浬
第五海軍區	膽振國室蘭港	室蘭鎭守府	北海道陸奥及陸中九戸郡海岸海面	二、二七六浬

以上五鎭守府中舞鶴は工事中、室蘭は豫定地たるのみにて、吳及橫須賀の兩軍港にて之を分管す。

◎外交。我が國と朝鮮とは一葦帶水を隔てゝ、古來交通頻繁なりき、殊に三韓は一時我が國に屬せり、其の後支那との交通も亦開け其の文物技藝等を輸入せること尠からざりき、天文九年に至

り、初めて葡萄牙の商船來り、尋て和蘭、英吉利、の商船亦來り、通商貿易せしが、耶蘇教輸入して、遂に島原の變亂となりしより、德川幕府は支那、和蘭二國の外、外國船の交通を禁じたり。

○降りて嘉永六年(紀元二千五百十三年)合衆國の使節ペルリ來り次で英、佛、露、の使節も來航して、交々互市を乞へり、是れを以て安政元年遂に北米合衆國と和親條約を結びしを始めとし、爾來諸外國と修好條約を訂結し、二千五百有餘年來、我が國は始めて世界の日本として外交場裡に出でたり、現今條約國の數は既に左の二十一國に及べり。

亞細亞洲　朝鮮　支那　暹羅

歐羅巴洲　英吉利　露西亞　和蘭　佛蘭西　葡萄牙　獨逸　瑞西　白耳義　伊太利　西班牙　墺地利匈牙利　丁抹　瑞典諾威

亞米利加洲　北米合衆國　墨西其　秘露　伯剌西爾

太洋洲　布哇

新編中學地理　日本誌　終

明治三十一年四月四日印刷
明治三十一年四月八日發行

新編中學地理日本誌
定價金七拾五錢

監修者　矢津昌永
編修者　角田政治
發行兼印刷者　東京市日本橋區通旅籠町十一番地　小林八郎
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目拾貳番地　株式會社秀英舍第一工場

版權所有

發兌書肆
大賣捌所
東京市日本橋區通旅籠町十一番地　集英堂
各府縣下書肆

新刊中等教科用及參考用書

矢津昌永監修　角田政治編修

新編中學地理外國誌

全壹冊

地圖壹綴

○矢津昌永監修
○角田政治編修
新編

中學地理

日本誌用

地圖

○島山讓編著

國文の栞

文部省檢定濟

全壹綴

○岡田辰次郎著

新體皇國小史

全壹冊　定價金拾五錢

全貳冊　定價金上下各冊八錢

文學士黑板勝美校閲
○遊佐誠甫
富永岩太郎　合著

中等漢文讀本

全拾冊

○同

初學漢文教授法

全壹冊　定價金三拾五錢

理學博士飯島魁
○理學士久田督校閲
佐々木豐三郎編纂

新體博物示教

中等教科

全壹冊　定價金三拾八錢

○學海指針社編

日本諸射地圖

全三軸　定價金參圓七十錢

○學海指針社編

萬國諸射理圖

全七軸　定價金七圓七拾五錢

84
39

022018−001−2

84−39

新編中学地理

角田　政治／編

M31−32

ADA−0298

32